

笹川保健財団主催
ハンセン病と NTDs 勉強会のご案内

ハンセン病は、WHO や各国保健省、NGOs 等の長年にわたる不断の努力により、年間の新規診断患者数は、今日 20 万人にまで減少させることができました。一方で、患者数の減少ゆえに、政府の当該疾病対策に対する予算の削減と人員配置の低下を招き、残された蔓延地でのハンセン病対策の実施が困難になっている現状があります。いまなお残る蔓延地の多くは、医療へのアクセスが極めて困難な地域も多く、貧困のために低い栄養と厳しい生活環境の中で苦労を重ねている方々も多くいられます。

顧みられない熱帯病 (Neglected Tropical Diseases: NTDs) の一つに位置づけられるハンセン病は、限られた資源の有効活用のために、特にアフリカ諸国では、他 NTDs の疾患対策と統合したアプローチが採用されています。NTDs 対策の中でのハンセン病へのアプローチが、今後ますます拡大してゆく傾向にあることから、当財団では、「ハンセン病と NTDs」とのテーマの下で、このような開発途上国においてますます活躍が期待される国際保健分野の若手専門家を対象として、勉強会を開催することを企画しました。

今般、国際保健分野の第一線で活躍される、錦織 信幸先生のご帰国に伴い、下記の通り、勉強会を開催いたします。合わせて、NTDs の一つの疾患である、ブルーリ潰瘍について深い見識をもたれる村瀬千晶先生もお招きし、ご講義いただきます。国際保健及びハンセン病に関心のある医師や研究者の方々のご来場を心よりお待ちしております。

記

日時： 2019 年 11 月 2 日 (土) 16:00-18:00 (開場 15:40)

会場： 赤坂インターシティコンファレンス 303 号室

(東京都港区赤坂 1-8-1 赤坂インターシティ AIR 3 階 地図 <https://aicc.tokyo/access/>)

最寄駅 東京メトロ 銀座線・南北線「溜池山王駅」14 番出口直結

講師： 錦織 信幸 氏 (WHO 本部 グローバル結核プログラム メディカルオフィサー)

村瀬 千晶 氏 (名古屋大学 医学部附属病院 皮膚科医師)

内容： 錦織 信幸 医師

「現代のグローバルヘルスにおける感染症対策 (仮題)」

現在のグローバルヘルスの考え方となっている Universal Health Coverage (UHC) や Sustainable Development Goals (SDG) 時代における感染症対策として、WHO の役割や NTDs 対策、ハンセン病に関わる戦略について、これまで動向や今後の展望などについてお話しいたします。

村瀬 千晶 医師

「皮膚科医としてのブルーリ潰瘍への関わり」

ブルーリ潰瘍の蔓延国はアフリカですが、先進国ならではの先端的な治療や日本のブルーリ潰瘍の疫学など、希少な国内症例も交えてお話しいたします。

※ ご講義の後、質問や総合討論などの時間を設けます。

※ 勉強会后、親睦会を予定しています。参加ご希望の方は、参加申し込みと共に、親睦会出欠の有無をご連絡ください。

詳細プログラム：

16:00-16:10 挨拶 笹川保健財団 南里 隆宏 常務理事

16:10-16:50 講義 錦織 信幸 氏

「現代のグローバルヘルスにおける感染症対策（仮題）」

16:50-17:10 質疑応答

17:10-17:20 休憩

17:20-17:40 講義 村瀬 千晶 氏

「皮膚科医としてのブルーリ潰瘍への関わり」

17:40-17:55 質疑応答

17:55-18:00 閉会

参加対象者： 国際保健やハンセン病に関心のある医師及び研究者（定員：約 30 名）

参加費： 無料

申込方法： 下記 URL より参加登録をおこなってください。

<https://forms.gle/r4XPCkQDrydD5Csv7>



問い合わせ先：

公益財団法人 笹川保健財団（担当：戸引）

東京都港区赤坂 1-2-2 日本財団ビル 5 階 代表 03-6229-5377 Email: hansen@shf.or.jp